

合格体験記（例）

「秘めた力を発揮しよう」

〇〇大学経済学部経済学科

〇〇回生 〇〇 〇〇

まず初めに受験をする上で最も大切だと思うことを話します。それは、授業にいかにか集中するか、授業中に先生からどれだけ多くのことを吸収するか、ということです。授業が1番大切、などと先生方から言われていることと思います。その通りです。どの授業においてもそうですが、とにかく先生の話す言葉を一言一句逃さずに自分のものにしてください。先生方は私たちがまだ知らないことをたくさん知っています。とにかく授業に集中しましょう。

各教科について

【英語】

早めに文法の力をつけといたほうがいいです。文法がわからなければ文章の内容が全く分からなくなってしまいます。文法ではわからないことがないと言えるようになるまで先生方に質問してください。加えて、2次試験になると語彙力がモノをいいます。ユメタンをコンプリートしましょう。単語について一つアドバイスをするなら、一つの単語に対して幾つかの意味を覚えることが難関大学には必要です。わからない、もしくは、意味の理解が曖昧な単語に関しては速攻で辞書を引いてください。語感をつかむこと。辞書と友達になろう、です。

【国語】

国語は私も苦手だったのですが、とゆうか1.2年生でサボりすぎたので出来なかったのですが特に現代文はとにかく文章を読むことに限ります。読んで自分の頭で考えていくことです。わからなければ先生に聞く、それを繰り返すうちにかならずわかるようになります。

古文も英語と同じように古文単語が必要になります。覚える勉強も古典では必要です。

【数学】

問題をとにかく多くといてください。自律はうつさないで自分の頭で考えましょう。また、センター試験の数学ではとにかくスピードが鍵になります。自律を一問解くにしても時間を計って解いておくことをおすすめします。

【その他の教科】

残りはほとんどが暗記教科だと思います。人間の脳は追い込まれると、謎の記憶力を発揮してくれます。考えてみてください、ボキャコンの日の朝のあなた

の記憶力は恐ろしいはずですが、世界史日本史理科に関してはセンター試験前が特に伸びる時期です。だから追い込まれてください。もちろんある程度の基礎がないといけませんが、その時期にスパートをかけてください。

最後に

1.2年生の時期は正直私も野球ばかりをやって、授業もすごく寝ていて、課題も何度も移しました。そういうことが受験をする上でいいことだったとは全く思いません。ですが、私は野球だけはとにかく死ぬ気で頑張りました。そのとき野球を頑張れたという自負が、受験になったときに私を限界まで頑張らせてくれました。だからみなさんも、一つだけ必死になって頑張れるものをもってください。部活でも勉強でもなんでもいいです。自分が今できること、やりたいことを全力で取り組んでください。かならずいいことがあります。

「執念と感謝」

〇〇大学教育学部養護教諭養成課程

〇〇回生 〇〇 〇〇

私は1、2年生のときの学習については話すことがないくらい本当に勉強をしていませんでした。課題と部活に追われ、毎日付いていくのに必死で、3年生に進級する頃には他のみんなと大きな遅れをとっていました。そんな私が最後まで諦めずに受験勉強に励むことができたのは、夢を見つけられたからだと思います。「教員になる」という夢を見つけ、その夢に対して執念を燃やし続けたからこそ、合格することができたのだと思います。

3年生になってからまずはじめたのは、疎かになっていた英語の文法をいちから勉強することです。中学生の頃、英語を得意教科としていた私は英語の学習を甘くみていたのですが、やはり1、2年時に手を抜いていたせいでまったく理解できませんでした。私はその日からほぼ毎日職員室へ行き、英語の先生をつかまえて質問に行くことにしました。部活を引退するまでは朝や昼休みなど、友達とおしゃべりをする時間を少し我慢して職員室へと通いました。初歩的な質問や意味のわからないであろう質問をしても、先生方はいつも質問を受けてくださりました。そしていつの間にか職員室へ行くことが習慣になり、引退してからの放課後自学の時間は教室で自学をするよりも職員室で先生に質問をしている時間のほうが長いような日もありました。今思えばその習慣が合格を引きよせることに繋がっていたのかなと思います。

「最短距離の勉強法なんて結果が出てからしかわからないから、自分が信じた方法でがむしゃらにやりなさい。」という先生の言葉がとても印象に残っています。受験期になると周囲の人において行かれるような気がして焦ることもありました。ですが、自分にあったやり方がそれぞれ違うときもあります。これは間違っている方法だということは先生が教えてくださりません。だから、とにかく自分の信じた勉強法をがむしゃらにやりぬくことが大切です。

人それぞれだと思いますが、すべての教科に共通して私に向いていたと思う勉強法は、「達成感」が得られる勉強法です。付箋の色を決めて、質問する箇所には付箋をはって、質問が終わって理解できたと思ったらその色の付箋にはりかえる。こうすることで、あとからその教科書を見たときに、先生からのアドバイスも思い出すことができますし、なにより、たくさんの付箋をみて、「頑張ったな」と思うことができます。試験のときも「これだけ頑張ったんだから大丈夫」と思える、お守りにもなります。

西高には信頼でき、熱心にご指導してくださる先生

方ばかりです。先生方を信じてとにかくやってみてください。

どんなに勉強をしても得点があがらず、全て投げ出したくなったときもありました。それでも諦めず最後までやってこられたのは、共に戦う友達、夢を応援してくださる先生がいたからだだと思います。夢を追い続ける「執念」と、周囲の人への「感謝」の気持ちを忘れず、頑張ってください。

「 受験を終えて 」

〇〇大学文学部
〇〇回生 〇〇 〇〇

(↓書き出し)

私は野球部に所属していました。だから、どちらかという部活があっている間は野球の方に重点を置いて生活していた気がします。引退後は、なかなか生活に慣れず大変でしたが、雲仙合宿から本当の受験勉強が始まったと思います。この頃の私は特に志望校のこだわりはなく、ただ学校の先生になりたいという夢があったので、教員免許がとれる学部、大学を選んでいました。しかし、秋の連続模試や先生との面談、友達との会話で、〇〇大学を志望することにしました。

センター試験の勉強は私にとってとても苦痛でした。国数英は時間との勝負であり、理社はほとんどが暗記勝負です。数英が苦手だった私は、時間を意識して勉強するようにしました。二番までを三十分で解こうとか、もうセンターは問題に慣れていく中で知識をつけていくかだと思います。

それに比べると、二次試験の勉強はやりがいのあるものだったので、思ったよりきつくなかったです。ただ、テストなどがない分自分の力がどれくらいかを確認できないことが不安材料になりますが、もう一ヶ月しかないから開き直ってやろうとしたことがよかったのだと思います。

合格発表の時、本当に不安でした。ネットで自分の番号をみたときは、人生で初めて嬉し涙を流しました。努力が報われた気がしました。後輩や友達からのおめでとうのLINEがたくさんきて、誇らしい気持ちになりました。一生忘れられません。

後輩にいいたいことは、無駄なことは一つもないということです。部活が忙しいときに何とか終わらせた課題も必ずいみがあります。まず、終わらせようとしたことに意味があると思うからです。そこで逃げたら必ずその逃げが大事なときにやってきます。受験の神様はいます。だから、今は大変かもしれませんが頑張りましょう。あとは、先生方を頼りましょう。進路で悩んだときは早めに相談した方がいいです。後になると、特に志望校を変えたいと思っても、先生もできるだけ高い望みを持つように説得するし、自分も今までの志望に対する思いなどで悩み、大事な時期に勉強に専念できなくなるのは、とても痛いです。また、小さなことでも質問すると、発展したところまで教えてくださったり、自分の苦手を見抜いてくださったりします。何より、自分の次に自分の成績を知っている人なので最後まで頼っていきましょう。

最後に、私は西高で本当によかったと思っています。それは、受かったからとかではなく、自分を大きくしてくれたからです。部活動や勉強、学校行事において、

新たな自分を見つけ、たくさんの経験をさせてもらいました。西高に感謝です。本当にありがとうございました。